

青森県立保健大学広報誌  
**活彩! 保健大学だより**  
 August 2013  
**Vol.29**

# Campus Magazine



保健大学の  
 すべてが  
 わかるわよ!



## オープンキャンパス 平成25年 8月9日(金)

10:00 ~ 15:00(受付開始9:30) 【午前の部】10:00~12:00  
 ※午前の部・午後の部は同じ内容のプログラムです。 【午後の部】13:00~15:00

★予約制ではありません。多くの方のご来場をお待ちしています!  
 〈プログラム/午前の部・午後の部(予定)〉  
 ・学科紹介・専任教員による模擬講義・実習体験・実験コーナー  
 ・大学構内自由見学・個別相談コーナー・在校生との語り  
 ・サークル有志による演奏 など



## 大学祭 平成25年 10月12日(土)・13日(日)

★どなたでもお気軽にお越しください!

## 保護者等(後援会)懇談会 10月12日(土) 13:00 ~ (予定)



※写真は昨年の様子です。

# 導入時教育

## 学長からのメッセージ

### 導入時教育としての新たな取り組み

導入時教育とは、入学前後において、中等教育からの円滑な移行を促し、入学後の教育内容の効果を高めることを目的として、学生に提供される正規課程に付随した教育プログラムのことです。本学では、既に高大連携において高校生に大学を開校して9年目になります。近年大学の「学士力」を強化すべく文部科学省からの教育指針の中に、コミュニケーションスキル、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップなどが示され、学業のみでなくたくましく「生きる力」を醸成することが期待されています。

本学では、新入生の学業面での支援と生活面での導入時支援を行っております。平成25年度から、旧宿舎を改造し1年生のみを対象とした学生寮をオープンしました。2人部屋の共同生活で、今年度は40人の試行期間ですが、翌年は約100人の新入生の利用が可能となります。生活の援助をする寮母、上級生の相談者、大学の関係者も含めて、学生の自治で運営され、大学組織が後押しする仕組みです。開設して3か月になりますが、先日第1回のワークショップが行われました。様々な課題を分析し、解決し、大学への要望も提出されました。お互いに助け合い、声かけをしながら自分達で3度の食事も掃除も行っています。本学の使命はヒューマンケアを提供する専門職の育成です。お互いに思いやりと、規則正しい生活を共にすることで成長することを期待しています。

また、学科別に行われていた新入生オリエンテーションも、新入生合同合宿となり2年目になります。学生にもっとも近い上級生が中心となり、寝食を共にし話し合うことで、少しでも不安から解放され良きスタートラインに立っております。このような導入時の教育的取り組みから、専門的知識のみでなくお互いの絆を結び、より豊かな人間性を育むことを祈願しております。



青森県立保健大学 学長  
リボウィッツ よし子



リボウィッツ よし子 教授・学長

山梨県出身、聖路加看護大学卒、看護学修士(ニューヨーク大学)  
専門は、看護管理、在宅・終末期看護。  
ワシントン州立大学看護学講師(1977～1980)  
トーマス・ジェファソンFRC副看護部長(1984～1995)  
訪問看護ステーション経営(1995～1998)  
大分医科大学成人看護主任教授(1998～2000)  
青森県立保健大学教授(2002)  
青森県立保健大学国際科長(2003)  
青森県立保健大学看護学科長・国際科長(2006)  
青森県立保健大学学長(2007～現在)

## 健康科学部長からのメッセージ

### 人間としての厚み＝「人間力」を培うために



大学での学びは、自らの意志により積極的・主体的に学ぶという姿勢が極めて重要です。高校までの「習う」態度から、「学び」へと意識を転換することが、大学生活、延いては卒業後の人生設計を成功させるための第一歩です。本学では1年次前期に、「学び」のための「学習技術」と「生活技術」を修得するために様々な「導入時教育」を実施しています。

「学習技術」は、教員からの一方的な授業ではなく、学生自身の参加・参画型の学習活動を通して、「学び」に必要な思考法や技術を修得し、問題解決能力として身につけます。「生活技術」は、ガイダンス、宿泊研修、講話会・研修会、体験型プロジェクト、ボランティアなどへの参加・経験を通して、豊かな人間性、基本的な生活習慣として養います。本学では学習・生活両面から、公私の区別力の涵養と自立心の育成、そして人間としての厚み＝「人間力」を培うためのプログラムとして「導入時教育」を位置付け、充実・実践しています。

健康科学部長 鈴木 孝夫

## 2013 入学式



4月4日、青森県立保健大学講堂において、平成25年度入学式が行われ、今年も250余名の新入生を各学科と研究科に迎えることになりました。

午前10時30分、これからの大学生活に期待を膨らます新入生とその保護者の方々が待ち受ける中、開式の辞とともに式が始まります。

新入生が一人ひとり名前を呼ばれ起立していく姿を、保護者の方々と本学教職員が見守ります。学長式辞に始まり、多くの方々からのお祝いの言葉が新入生たちに贈られました。コーラスサークルによる学校歌の紹介に続き、在学生代表や各学科の教員たちによるスピーチの頃になると、新入生たちの緊張も少し和らいだようで、真剣に耳を傾けながらも、時折笑顔を見せるようになりました。

写真撮影も終わり講堂の外へ出ると、サークルの勧誘に集った多くの先輩たちが新しい仲間を歓迎します。驚きながらも笑顔で応じる新入生たちの姿は、新しい春の到来を感じさせてくれました。

# 新入生研修



4月12日(金)・13日(土)〈星野リゾート 青森屋〉

平成25年4月12日(金)・13日(土)の2日間にわたり、学内講堂及び三沢市の星野リゾート青森屋において、新入生研修が実施されました。この研修は、研修の場を通して、同級生・上級生・教職員と交流することで、新しい学生生活を円滑に過ごせるように支援することを目的としています。

研修では、上級生によるサークル紹介やレクリエーション、学科別の自由討論会、学長らによる講話会が行われ、大学生活や教育についての理解が深められたとともに、学科を超えて、同級生、上級生、教職員との交流が図られました。

新入生のアンケート結果からは、「専門分野の学習や実習、学生生活について、先輩から直接疑問に答えてもらえてよかった」、「学長からのメッセージが胸に響いた」といった声や、「レクリエーションが楽しかった」といった感想等が寄せられ、9割以上が「満足」「やや満足」と回答し、参加した新入生にとって爽やかな研修となったようです。

今後は、アンケートに寄せられた意見や要望をもとに、来年度に向け、学生、教職員とがさらに協力し合い、よりよい新入生研修を企画していきたいと思っております。



## 学生寮

※写真左から6番目が香川愛さん。



寮長である香川 愛さん(栄養学科)に寮生活の感想を聞いてみました。

私はこの寮に入ったことによって、他学科の友達が出来て良かったと思っています。そしてわからないことがあってもすぐ聞けるし、何よりみんなと一緒に過ごしているため、寂しいとは思いません。一緒に料理を作ったり、おしゃべりをしたり、毎日楽しいです。🎵🎵



私たちは、寮生の皆さんが安全に、かつ快適に寮生活をしながら自立の準備ができるように、お手伝いをしています。新米寮母ですが、寮生の皆さんと一緒に成長していけるように、顔晴り(「頑張り」ではなく)ます。

寮母:新山 和子・乳井 律子・神山 恵美子より

## 看護学科

※写真中央が岩瀧さん。



実践基礎看護技術という授業では、患者さんに提供する実際の看護技術を学んでいます。一年生から看護技術を学ぶことは、確かに大変なことも多いですが、看護師になるうえでの必要な技術や心構えを早くから身につけることが出来るので、頑張って空き時間に練習しています。先生方が授業でないときにも技術指導をしてくださいますので、少しずつ、そして着実に技術を学ぶことができている。忙しいことも多いですが、皆と一緒に看護師になるために勉強に励んでいこうと思います。

看護学科1年 岩瀧 美紅

## 社会福祉学科

※写真左が石藤さん。



保健大学に入学して約3ヶ月が経ちました。まだ、入学して日は浅いですが4学科が協力して行う鯉ヶ沢へのフィールドワークや、社会福祉基礎実習で食事の介助・被介助体験をするなど実践的な授業を受けています。また、サークル活動やメンタルフレンドのボランティア活動に参加するなど充実した大学生活を送っています。これから保健大学での授業や実習を通して知識を深め多くの経験をしていく中で人としてより成長していきたいです。

社会福祉学科1年 石藤 瑞季

## 入学生の近況報告

### 理学療法学科

毎日の一瞬一瞬が学びの場



入学式を終えほっとしたのもつかの間、大学生活は新しいことばかりで、目まぐるしく毎日が過ぎていきました。気が付くと前期も残りわずかという状況に驚いています。1年前期は、人間総合科学科目や健康科学演習など、他学科の学生と協力しながら行う活動が多いので、仲間の幅がどんどん広がりました。学年、学科の垣根を越えて交流できるところが、この大学のいいところだと思っています。授業だけでなく、人間関係を通して日々学んでいます。

理学療法学科1年 宇野 亜衣

### 栄養学科

※写真奥右から2人目が小野さん。



2013年6月2日に、恒例の栄養学科新入生外研修会を行いました。2年生が準備を進め、BBQなども交えて充実した1日を過ごしました。

1年生は、2年生が企画した「栄養学科ならではの問題」にスタンブレイ形式でチャレンジしました。例えば、「手ばかり」で食材の重さを当てる、外食メニューをエネルギーが多い順に並べる(写真)、味をあてるなどです。

私は、管理栄養士になりたいので保健大に入りました。予想していた専門的で難しい勉強はまだしていませんが、学生数が少ないので先生との距離感が近く、学びやすい環境だなと思っています。

栄養学科1年 小野 史織

この研修を通して1年生は大学へグッと馴染むようになり、学生同士の交流もより深まったようです。

# 青森県立保健大学 各学科の紹介

## 看護学科



ベーシックヘルスアセスメント



ベーシックヘルスアセスメント



実践基礎看護技術II



実践基礎看護技術II



### 卒業生からのメッセージ…



4月から県立中央病院8階西病棟で勤務しています。私が働く血液内科は、悪性リンパ腫等で化学療法を行っている患者さんが多くいらっしゃいます。患者さんの思いを汲取り、安心して治療に臨めるような看護を提供できるよう日々頑張っています。働く上で辛いこともあります。その辛さを相談し合える仲間にも保健大学で出会うことが出来ました。保健大学での学びや出会いを大切に、素敵な看護師になるためお互い頑張りましょう。

看護学科 平成24年度卒業生

《青森県立中央病院8階西病棟(血液内科)勤務》 白川 智美

### 保護者の皆様とともに

冬も過ぎ風薫るいい季節になりました。保護者の皆様には、受験という厳しい冬をお子様とともに乗り越えた今、安堵と喜びに満たされていることと思います。入学後も、引き続きお子様のご支援をよろしくお願い致します。教員は講義、実習等全力をあげて学生をサポートしています。しかし、一步キャンパスの外に出ると教員の手は届きません。経済状況が悪化する中、悪質な商法、宗教の勧誘、携帯電話(特にゲーム)の高額な請求書など心配事は尽きません。

保護者の方々には、特に20歳前の学生さんをお持ちの場合、学生さんが決断をする前に保護者の方に相談する習慣をつけていただければと思います。成人し自己決定ができるようになるまでのことです。

保護者の方々も教員と一緒に学生を支え、病む人を支える立派な看護師、保健師、助産師を育てて生きたいと思っております。そして、精一杯がんばった後に来る春を、一緒に喜びたいと思っております。

※5月31日執筆



看護学科長 大関 信子

## 理学療法学科

### 発達障害理学療法学

この授業科目は、理学療法学科3年前期に開講される科目で、主に小児疾患に対する理学療法について学ぶ科目になっています。小児疾患への理学療法の前知っておかなければならない基礎的な知識は、正常運動発達と姿勢反射であり、その習得をみっちり行います。加えて、周産期のリスクファクターや、異常な運動発達、正常運動発達が姿勢反射の推移と表裏一体であることを学んでいきます。さらに、理学療法自体が小児理学療法で発展してきたこともあり、その歴史についても紐解くことも行われます。

実際の小児疾患への理学療法は、関連科目である発達障害理学療法学実習に引き継がれ、イメージをつけてもらうために、養護学校への学外実習が行われ、実際の小児理学療法対象疾患を目にする機会をもうけています。



### 卒業生からのメッセージ…



早いもので、就職してからもう3ヶ月が経ちました。私はむつ市にある青森社会福祉振興団みちのく中央デイサービスセンターに勤務しています。利用者さんへのリハビリ以外にも、日々の業務における記録や2週間ごとにあるリハビリスタッフ勉強会の資料作成、法人が発行する新聞の編集など、忙しくも充実した日々を過ごしています。下北は自然がとても豊かで、出勤時にカモシカと遭遇することもありました。休日はドライブがてら温泉へ出かけたり、職場の方とフットサルをすることでリフレッシュしています。8月には新たにクリニックも開設されるため覚えることはまだまだたくさんありますが、これからも頑張っていこうと思います。

理学療法学科 平成24年度卒業生

《青森社会福祉振興団 みちのく中央デイサービスセンター勤務》 成田 栄司

### 科学とヒューマンケアに根ざした理学療法

理学療法は、障がいをもたれた方、あるいは障がいを予防しようとする方の動作を、科学的根拠に基づいて「分析」をして、身体面・精神面の活動性と社会参加のありさまを把握します。そのうえで、対象とする方に応じたオーダーメイドな治療、あるいは障がい予防のための方策を立案して、専門的な技術を用いた運動プログラムを実践します。さらに、その効果判定によって対象とする方の状態を理学療法プロセスに反映させます。目指すは科学とヒューマンケアに根ざした理学療法による、健康を基盤とする生活の質の向上です。そのためには、理学療法学および基礎医学・臨床医学などの自然科学の知識に加え、人とのコミュニケーションと思いやりが必要です。理学療法学科では現在19人の常勤教員が先進的な設備を整えた教育環境で教鞭をとっております。自然豊かな青森の地で、澄みきった洞察力と感性を磨きながら、学生は目標にむかって生き生きと学んでおります。



理学療法学科長 佐藤 秀一

## 人間総合科学科目

人間総合科学科目はリテラシー系の科目群と教養系の科目群から成ります。リテラシー系の科目とは学習リテラシー、すなわち大学で学ぶためのスキルを身に付ける事を目的とする科目です。これに対し教養系の科目はいわば人生のスキルを身に付ける事を目的とする科目といえるでしょう。本学の各学科は特に専門性が高いため、それを補完するうえで教養教育の重要性はさらに増えています。

専門科目が室内の照明ならば、リテラシー科目は手元を照らす電気スタンドであり、教養科目は街灯のようなものです。室内の照明や手元を照らす電気スタンドの重要性は容易に理解できますが、室内にいる限りは街灯の重要性は分からないものです。本学の卒業単位はいずれの学科でも124単位です。このうち人間総合科学科目からは28単位を取得すれば良いのですが、人生の途も明るくに越したことはありません。しっかり街灯を設置してください。



看護学科 教授 山田 真司



English A~D

○English A~D  
ネイティブスピーカーでの英会話重視型の英語教育により、国際的に活躍できる人材の育成をめざしています。

○人間総合科学演習  
より学際的な視点に立ち、問題を解決していく方法と、それをまとめる能力を高めます。

○情報リテラシー  
現代のすべての職種・業務において必要不可欠なコンピュータの基本操作から、各種ソフトの操作方法を習得していきます。



人間総合科学演習



情報リテラシー

# 社会福祉学科



## 卒業生からのメッセージ...



今春から、八戸市にある医療法人清照会湊病院で精神科ソーシャルワーカーとして勤務しています。現在は精神科デイケアスタッフとしてメンバー（精神障害者）の就労準備支援を行っています。私は大学時の実習を通して患者理解が重要だと学びました。患者自身を知ることが出来なければ、本人の気持ちに寄り添うことや次の支援につなげることができません。普段から様々なことに興味、関心を持つことも、患者の理解や支援に役立つと思います。在学生のみなさんも視野を広げて充実した大学生活を送って下さい。

社会福祉学科 平成24年度卒業生  
《医療法人 清照会湊病院 勤務》 北川 千紘

## 頼もしい対人援助職に向けて

青森県立保健大学は、すべての学科において対人援助職を養成する大学です。自己利害に汲々としているこの時代において、他者の役に立ちたいと入学してくる学生さんは立派だと言えるでしょう。しかしながら、他者を援助することはそれほど簡単ではありません。とりわけ自立心に燃え自意識が過剰な学生さんにとって、他者の視点から物を見ることはなかなかできません。本学では演習や実習を通して、こうした他者の視点を学び同時に自己を知る様々な教育を行っています。おそらく他者の視点に立つ上で最も難しくそして遅い課題となるのが親の視点に立つことだと思います。子供さんが親の視点で物を考えることができるようになった時、親の目にはきっと頼もしい子供さんと映ることでしょう。保護者の皆さまには、学生さんたちが頼もしい対人援助職になることにご協力をお願い申し上げます。



社会福祉学科長 出雲 祐二

# 栄養学科



リンゴの褐変とその防止法を実験  
(写っているのは現2年生)



微生物検査のために食材抽出物からサンプリング  
(写っているのは現3年生)



メタボ患者への栄養指導をロールプレイングで学ぶ  
(写っているのは現4年生)

## 卒業生からのメッセージ...

♪勤務先を教えてください。

藤田:「味の素ニュートリション株式会社です。」  
尾崎:「日本赤十字社 武蔵野赤十字病院栄養課です。」

尾崎:「エムサービス関東株式会社です。」

♪お仕事の内容を教えてください。

藤田:「病院や施設に流動食や栄養ケア食品を紹介することです。医療関係者への説明会や勉強会も行います。」  
尾崎:「厨房業務全般です。厨房サプリーダーの補助として、一般常食以外の調理や盛り付けなどを担当しています。約800床分、大忙しの厨房です。」  
尾崎:「今は業務内容を覚えることを目的に、主に厨房業務、食礼業務、検品などを行っています。」

♪在学生へメッセージがあれば一言お願いします。

藤田:「次第に『仕事』『やりたいこと』などの悩みが多くなると思います。でも、一番興味の持てることを見つけてください! 臨床でも食品でも、色んな職種をみてください。きっと視野が広がります。卒研も頑張りすぎないでね (\*^\*)!」  
尾崎:「大変な時こそ、笑顔と友達を大切に。あと、美味しいご飯も!」  
尾崎:「大切なのは、今できることを行うことだと思います。『やれるだけ』やってみてください。」

♪ありがとうございました。聞き手は平成24年度卒の山下久美子(保健大・実験実習助手)でした。 栄養学科 平成24年度卒業生 尾崎さん 山下さん 藤田さん 尾崎さん

私たちの栄養学科は、今年3月に2期生を無事に社会へ送り出すことができました。就職率も、国家試験合格率も、たいへん高いものとなりました。これは、2期生の目標に向かう真摯な態度と不断の努力の「賜物」です。と同時に、保護者の皆さまをはじめ、地域や関連分野の皆さまの支えがあった結果です。

今年も、栄養学科は「自ら考え、行動して、ヒューマンケアを実践できる管理栄養士」を目指して学生たちとともに歩んでおります。どうぞ、応援をお願いします!



栄養学科長 佐藤 伸



# 保健管理委員会から



## 「悩みは言葉にした瞬間小さくなる」

本学管理棟1階に貼られているポスターのタイトルが目に入った。「悩みは言葉にした瞬間小さくなる」。まさにそうだと思う。悩みは人に話し、聴いてもらえたと感じたときに軽くなる。それは、一人の人間として信頼され受け入れられたとき。不安や緊張感から解放され、気負いのない自分になったとき。からまりもつれていた糸が自然にほぐれ、自分の中にある本来の健康な力(判断力・問題解決能力)が動き始める。

学生のみなさん、不安や悩みを抱え苦しいと感じたときには、一人で悩んでいないで「保健室」のドアをノックしてください。保健室で悩みを言葉にしてください。保健室という空間で、自分を見つめる時間を作ってください。保健室は、あなたのところに寄り添い、あなた自身の健康な力で解決していけるよう支援していきます。

保健管理委員会 保健嘱託員 大里 美佐子

# 後援会長からのメッセージ



後援会会員の皆さまには、ご健勝のこととお慶び申し上げます。  
先般の総会にてご承認いただき、本年度、後援会会長を務めさせていただきますことになりました高田一憲です。

本学は開校以来15年が経過しましたが「ヒューマンケア」を志向し、実践的な社会人育成に向けた専門性の高い大学として、着実にその存在感を高めてきております。毎年高い国家試験合格率や高い就職率を維持しており、今後、様々な場面で卒業生の活躍している姿を見ること

が出来ると思うととても嬉しくまた心強く感じます。

後援会としても会員皆様のご協力とご支援をいただきながら、学生の成長を見守っていきたくと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

後援会長 高田 一憲

## 平成25年度 青森県立保健大学後援会役員名簿

<b>会長</b> 高田 一憲 <small>(学生所属学科) 栄養学科2年</small>	<b>副会長(理事)</b> 根川 治 <small>(学生所属学科) 看護学科4年</small> 佐藤 金司 <small>(学生所属学科) 理学療法学科2年</small>	<b>理事</b> 藤田 義幸 <small>(学生所属学科) 看護学科1年</small> 野澤 浩子 <small>(学生所属学科) 理学療法学科2年</small> 大坂 大 <small>(学生所属学科) 社会福祉学科1年</small> 織田 大助 <small>(学生所属学科) 社会福祉学科2年</small> 石川 武 <small>(学生所属学科) 栄養学科1年</small>	<b>監事</b> 永山真理子 <small>(学生所属学科) 理学療法学科3年</small> 神 悦子 <small>(学生所属学科) 看護学科2年</small>	<b>顧問</b> 岩月 宏泰 <small>学生部長</small>
---	--	---	---	--

## 平成24年度 青森県立保健大学後援会 決算書

(収入の部)

(単位:円)

項目	予算額(A)	収入額(B)	比較(B-A)	摘要
1 会費収入	9,090,000	9,050,000	△40,000	@40,000×214人(学部学生) @30,000×1人(編入学生:社福) @20,000×8人(編入学生:看護) @30,000×2人(編入学生:栄養) @20,000×12人(大学院生)
2 前年度からの繰越金	18,967,321	18,967,321	0	
3 雑収入	2,665	2,816	151	預金利息等
合計	28,059,986	28,020,137	△39,849	

(支出の部)

(単位:円)

項目	予算額(C)	支出額(D)	比較(D-C)	摘要
1 会議費	63,000	28,000	△35,000	後援会総会・理事会等出席に係る役員の交通費
2 事務費	87,000	74,375	△12,625	保護者等懇談会の開催案内発送費
3 事業費	10,146,000	8,867,393	△1,278,607	
(1) サークル活動助成費	1,392,000	979,179	△412,821	自治会活動費、サークル助成費
(2) 大学祭等助成費	1,300,000	1,300,000	0	大学祭運営費
(3) 会報誌作成費	156,000	133,660	△22,340	「後援会だより」・「保健大学だより」の統合により費用折半
(4) 学生福利厚生費	1,527,000	1,326,647	△200,353	肝炎検査、貧血検査、実習に係る諸検査費用
(5) 国際交流助成費	100,000	99,000	△1,000	仁済大学(韓国)へ学生派遣
(6) 就職対策費	50,000	20,000	△30,000	4年生対象ガイダンス、3年生対象ガイダンス
(7) 卒業関係助成費	3,705,000	3,470,192	△234,808	卒業関連事業助成、卒業研究助成、特別・課題研究助成
(8) 新入生研修費	1,566,000	1,476,000	△90,000	新入生に対する学内研修及び学科別交流に要する昼食代等
(9) 東日本大震災被災学生支援費	300,000	30,000	△270,000	東日本大震災で被災した学生に対する教材等の購入補助
(10) その他	50,000	32,715	△17,285	大学院生関連事業
4 予備費	100,000	0	△100,000	
小計	10,396,000	8,969,768	△1,426,232	
5 次年度以降事業費	17,663,986	0	△17,663,986	
合計	28,059,986	8,969,768	△19,090,218	

※次年度への繰越金 19,050,369円 ( 総収入28,020,137円 - 総支出8,969,768円 )

# 平成25年度 青森県立保健大学後援会 予算書

(収入の部)

(単位:円)

項目	(A)24年度予算	(B)25年度予算	比較(B-A)	摘要
1 会費収入	9,090,000	12,137,500	3,047,500	
2 前年度からの繰越金	18,967,321	19,050,369	83,048	
3 雑収入	2,665	2,816	151	預金利息等
合計	28,059,986	31,190,685	3,130,699	

(支出の部)

(単位:円)

項目	(C)24年度予算	(D)25年度予算	比較(D-C)	摘要
1 会議費	63,000	81,000	18,000	後援会総会・理事会等出席に係る役員の交通費
2 事務費	87,000	88,000	1,000	保護者懇談会開催案内等送料他
3 事業費	10,147,000	11,438,000	1,291,000	
(1) サークル活動助成費	1,393,000	1,393,000	0	自治会活動費、サークル助成費
(2) 大学祭等助成費	1,300,000	1,500,000	200,000	大学祭運営費
(3) 会報誌作成費	156,000	140,000	△ 16,000	「後援会だより」・「保健大学だより」の統合により費用折半
(4) 学生福利厚生費	1,527,000	1,734,000	207,000	肝炎検査、貧血検査、実習に係る諸検査費用
(5) 国際交流助成費	100,000	100,000	0	仁済大学(韓国)への学生派遣
(6) 就職対策費	50,000	320,000	270,000	4年生対象ガイダンス、3年生対象ガイダンス
(7) 卒業関係・国家試験対策関係助成費	3,705,000	3,705,000	0	卒業関連事業助成、卒業研究・国家試験対策助成、特別・課題研究助成
(8) 新入生研修費	1,566,000	2,496,000	930,000	新入生の学外での宿泊研修に係る宿泊費
(9) 東日本大震災被災学生支援費	300,000	0	△ 300,000	東日本大震災で被災した学生に対する教材等の購入補助
(10) その他	50,000	50,000	0	大学院生関連事業
4 予備費	100,000	100,000	0	
小計	10,397,000	11,707,000	1,310,000	
5 次年度以降事業費	17,662,986	19,483,685	1,820,699	
合計	28,059,986	31,190,685	3,130,699	

## 学生部長からのメッセージ



### 「保護者の皆様へ」

今春、本学では200余名の新入生(15期生)を迎え、早3か月が経過しました。本学では、すべての学生が入学時の志を忘れることなく、学習環境に適応し、専門科目の勉学と充実した学生生活を送ることができるよう、教職員による学生生活支援体制を整えています。欠席が目立つ学生には各学科の担任教員が面談して学習方法の指導などを行い、必要に応じて保健室やカウンセラーへの紹介も行います。

また、青森県立保健大学後援会は、本学学生の保護者の皆様によって組織されています。この後援会は、大学とご家庭の架け橋となり、学生たちが充実した学生生活を送れるよう、卒業研究、国家試験対策、課外活動などを支援することを目的に、開学時に設立されました。10月

12・13日には、本学の大学祭が開催されます。特に、12日には保護者等(後援会)懇談会を予定しております。各学科の教員が保護者の皆様とご子女の学業、生活、進路について話し合う個人面談の場も設けています。参加された保護者の方からは、「子供に対する学生生活支援のことがよくわかり安心した」との感想が数多く寄せられています。この機会に是非本学を訪れ、親元を離れて本学で学ぶご子女の成長と大学祭を楽しんでいただければと思います。

今後も保護者の皆様とは、ご子女の医療・保健・福祉の専門家になるという夢の実現のために、連携して指導していきたいと考えています。

学生部長 岩月 宏泰

## 自治会長からのメッセージ



学生自治会は、学生の立場から学生部長や教務学生課と連携して、学生生活をより豊かなものにしようと日々頑張っています。新入生研修や大学祭実行委員会の立ち上げなど、学業以外でも大学生活を楽しめるようにしています。

全学生がお世話になっている大学との橋渡しになれるよう学生の話聞き、教務学生課からもアドバイスをいただきながら日々努力をしています。

新しく学生寮もできて私たちを取り巻く環境は変化しています。新たな試みにも学生たちの意見を取り入れて、より多くの学生たちにとって

過ごしやすい大学を作るため、学生の立場からできることをするのが学生自治会の役割です。

学科の枠にとらわれず、人とのつながりを大事にする学生の代表組織でありたいと思っています。

学生自治会長 梅藤 栄一

# 国家試験合格率

★すべての試験種別で、全国平均の合格率を上回りました。  
★社会福祉士の合格率は、全国第2位(受験者50名以上の全国の養成校69校中)でした。

## 看護学科

**看護師** 99.0%  
・合格者=100名/受験者=101名

**保健師** 99.1%  
・合格者=105名/受験者=106名

**助産師** 100%  
・合格者=4名/受験者=4名

## 理学療法学科

**理学療法士** 93.5%  
・合格者=29名/受験者=31名

## 社会福祉学科

**社会福祉士** 62.0%  
・合格者=31名/受験者=50名

**精神保健福祉士** 85.7%  
・合格者=6名/受験者=7名

## 栄養学科

**管理栄養士** 97.0%  
・合格者=32名/受験者=33名

# 就職サポート・就職率

6月8日(土)〈就職合同説明会〉



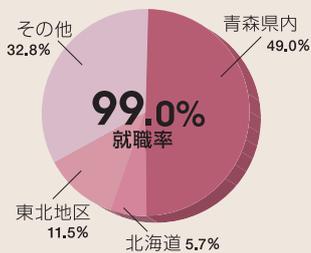
本年も昨年以上に施設・病院様にお集まりいただき盛況のうちに就職合同説明会を開催しました。

## 就職率

★平成24年度は「就職率99.1%」を達成。これは開学以来最高の就職率です。

※おもな就職先地域および就職率。東北地区は青森県以外の東北。 ※平成25年5月1日現在。

### 看護学科



### 理学療法学科



### 社会福祉学科



### 栄養学科



★平成24年度 栄養学科2期生の就職率100%は、2年連続です。

## 大学院の紹介

「ヒューマンヘルスサイエンス & アートの探求」

### 青森県立保健大学大学院

健康科学研究科 健康科学専攻

#### 博士前期課程

- 収容定員: 40名(入学定員20名)
- 修業年限: 2年(社会人長期在学コースは3年)
- 学 位: 修士(健康科学・社会福祉学・看護学)

#### 博士後期課程

- 収容定員: 12名(入学定員4名)
- 修業年限: 3年
- 学 位: 博士(健康科学)



### 大学院でステップアップを!

学部を卒業してさらに研鑽し研究を深めたい方、働きながら高度専門職としてのステップアップを目指す方、そのいずれの場合においても、本学の大学院は自己実現のためにふさわしい環境を提供しています。「ヒューマンヘルスサイエンス&アートの探求」に共感する皆さんとともに、このキャンパスで学び、研究できることを、教員一同心よりお待ちしております。

健康科学研究科長 吉池 信男



発 行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会